

特別支援教育

1 1 月 1 3 日 (木)

	学級	授業者	単元名・題材名
公開授業 1 13:00～	ひまわり 1 組 (知的)	清水 祥子	「自分で買い物ができるようになろう」 正しくえらぼう
	ひまわり 3 組 (自閉・情緒)	池田かおり	分数／小数
	ひまわり 6 組 (難聴)	石地千佳子	せつめいする文しょうをよもう 「じどう車くらべ」
事前収録 13:00～	まなび 1 (LD/ADHD 等 通級指導教室)	森永 恵	めざせ、お話名人 ～仲間と楽しめるクイズを作ろう～
	ことば (言語 通級指導教室)	北山 晃英	チャレンジ！になりたい自分 「お話名人」
公開授業 2 14:00～	ひまわり 4 組 (自閉・情緒)	砂田 睦美	割合

ひまわり1組 生活単元学習 単元指導計画

自分で買い物が できるようになるう	正しくえらぼう（全7時間）
スーパーマーケットには、どんなものが売っているか。  買い物をする時に気を付けるとよいことをまとめよう。  家の人にたのまれたものを買に行こう。 	第1・2時「スーパーに売っているものを調べよう。」 ① スーパーで買ったことがあるものを発表する。 ② この他にどんなものが売っているか考える。 ③ 商品をどんなグループに分けてならべているか考える。 ④ お店に行き、商品の案内板や売っているものを調べる。 ⑤ 商品をどんなふうに並べているか、お店の工夫についてのインタビューをする。 ⑥ スーパーに売っているものをまとめる。 第3時「家の人は、どんなことに気をつけて商品をえらんでいるかまとめよう。」 ① お菓子を買うときに、どんなことを考えて選んだか思い出す。 ② 家の人はどんなことに気を付けているか発表する。 ③ 商品によって気を付けることがちがうところと同じところがあることに気が付く。 ・値段、量、好きな味 ・野菜、果物、魚、肉…新鮮、季節 ・カレー粉や缶詰…量、味、メーカー ・食パン…消費期限 ④ カレー粉などは、自分の家で決めているものがあることを知る。メーカーや好みも大切な選ぶポイントになることを知る。 第4時（本時）「たのまれたものについて、気をつけることをかくにんしよう。」 ① 家の人に頼まれたものを発表する。 ② 自分のめあてを発表する。 ③ お店に行ったつもりで、買い物の練習をする。 ④ 本当の商品を見て、確認する。 ・家の人に聞いたこと ・前時まとめた中にあること ・自分で考えたこと ⑤ 選ぶポイントをまとめる。 ⑥ 友達のよかったことを発表する。 ⑦ めあての振り返りをする。 第5時「お金の出し方を練習しよう。」 ① 自分の持っているお金を確認する。 （10円玉4枚、100円玉2枚、500円玉1枚） ② 商品の値段を見て、ちょうどよいお金を出す練習をする。 ③ 値段より多くお金を出せばいいことが分かる。



買い物に行っ
た振り返りをし
よう。

第6時「頼まれたものの買い物に行こう。」

- ① 買い物の準備を確認してスーパーへ出かける。
- ② 頼まれた商品の売り場を見つける。
- ③ 頼まれた商品を見つける。お金は足りるか値段をしっかりと見る。
- ④ レジでお金を払う。

第7時「買い物に行ったことの振り返りをしよう。」

- ① 買い物にいった感想を発表する。
- ② 心配だったけれどうまくいったことや困ったことはなかったか、確かめる。
- ③ これから買い物をする時に気を付けたいことを発表する。
- ④ 食べ物ではないものを買う時は、どんなことに気を付けているか考える。
(文房具、服や靴など)
- ⑤ 食べ物でなくても、いろいろなことに気を付けて買い物をしなくてはいけないと分かる。

☆単元を貫く課題に対して、それぞれの個別の支援計画や指導計画と照らし合わせて評価する。

■ 教科：生活単元学習	■ 単元名：「自分で買い物ができるようになろう」正しくえらぼう（４／７）
■ 授業者：清水 祥子	■ 授業学級：ひまわり１組（知的障がい学級：５年生２名、６年生３名） （北舎２階 ひまわり１組教室）
■ 本時の「ねらい」	
５年Ａ児：商品を選んだ理由を友達に話すことができ、頼まれた買い物でどんなことに気を付けるかわかる。	【人間関係の形成】間違えても、友達のアドバイスを聞き入れるなどして、粘り強く取り組むことができる。
５年Ｂ児：前時に確認したことや家の方に聞いてきたことを手掛かりに商品を選んだ理由を話すことができ、買い物する時に気を付けることができる。	【環境の把握】周りの環境に左右されず、自分のペースで最後までやりきることができる。
６年Ｃ児：商品を選んだ理由を友達に伝えることができ、どんなことに気を付けて商品を選ぶか理解することができる。	【心理的安定】事前に活動内容を確認することで、活動の見通しをもち、安心して活動できる。
６年Ｄ児：自分の経験したことから商品を選んだ理由を友達に伝えることができ、さらに友達や教師の意見を取り入れることができる。	【コミュニケーション】友達に対して気付いたことを優しい言葉で伝えることができる。
６年Ｅ児：前時に確認したことや家の方に聞いたことから商品を選んだ理由を話すことができ、友達の意見を取り入れて選ぶポイントを確認することができる。	【環境の把握】相手に伝わるように声の大きさやスピードに気を付けて話すことができる。
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】①自分の意見をみんなに伝わる声で話す。②前時の学習内容や家の方に聞いたことなどを手掛かりにして話す。③友達にアドバイスされたことを取り入れる。	

時間	●学習活動 ・児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
０	●家の人に買ってきてほしいと頼まれたものを発表する。	◇研究内容１：「個別最適な学び」
３	●課題の確認 たのまれたものについて、気を付けることをかくにんしよう。 ●前時に学習した商品を選ぶポイントを見て、自分のめあてを発表する。 A 児 にんじんを頼まれた。 にんじんは、新鮮なものを 選びたい。 B 児 カレー粉を頼まれた。 うちでは、〇〇というメーカーの 「〇〇カレー」というものを いつも使うので、それを選びたい。 大きい箱のものを買う。 C 児 ツナ缶を頼まれた。 １個でなくて、３個まとまりの ものの方がお得だと言われた。 ３個まとまりを選びたい。 D 児 スライスハムを頼まれた。 ３つパックになっていて、安い ものを選びたい。 量が多いものを選びたい。 E 児 ジャムを頼まれた。 中くらいのビンに入っている イチゴジャムを選びたい。	・個人のめあてが達成できるための手立てを準備する。 ・全員の保護者と事前に打ち合わせをして、買い物を頼む商品を選 んでおく。本人は、選ぶポイントなど、家の方から聞いておく。 A 児：実物を準備し、自分の考えをもちやすくする。困った時は、 アドバイスをもらえることを伝え、自分から聞いて解決でき るようにする。聞くことができたなら即時評価する。 B 児：前時までには自分の考えを発表するなどの活動に対して大きく 評価し自信をもたせる。よく知っている商品を準備する、前 時の学習内容をまとめた掲示物を準備する等、自分のペース で活動できる環境を整えておく。 C 児：本時の活動内容を授業の始めに提示し、安心して授業に取り 組めるようにする。家の方に選ぶポイントを本人に伝えてい ただくことで自信をもって活動できるようにする。 D 児：本人がつぶやいたことをその都度評価する、板書でポイント を分かりやすく示すことで、友達に声をかけやすい環境を整 える。優しく声をかけたら、その都度評価する。 E 児：家でどんなことを聞いてくるとよいか分かるプリントを準備 し、安心して発表できるようにする。つぶやいたことを問い 返し、全体に向けて話す場面を意図的につくる。
８	●お店に行ったつもりでいくつかの実物やパッケージ、写真カードの中から商品を選ぶ。２つのグループに分かれ、順番に商品を選ぶ。 ・選ぶ人は、迷ったら友達にアドバイスを聞き、参考にする。見ている人は、アドバイスをする。 ・自分の頼まれた商品を自分のめあてにそって選ぶ。選んだ商品を自分の机の上に置く。	
２０	●選んだ商品を見せながら、どんな理由でそれを選んだのか発表する。 A 児 傷やいたんだところがないか、 しっかり見て選んだ。 １本だと足りないと思ったので、 ３本入りにした。 B 児 いつも家で買っているカレーを選 んだ。味も中辛で大きい箱のもの にした。家族の人数が多いので、 大きい箱でないと足りないから。 C 児 ３個まとまったツナ缶を選んだ。 いつも買っているツナ缶は、これ だったのでこれにした。 D 児 いつも家で買っているハムはこれ だけど、こっちの方が安いから、 これにしてみた。消費期限も見て、 日付が遅いものにした。 E 児 ジャムはイチゴジャムで中くらい のサイズを選んだ。 値段が色々あって迷ったので家で いつも食べているものにした。	
２５	●友達の買うものでこんなことを選ぶポイントにするといいと思うことを発表する。 ・野菜は、新鮮なものがいい。葉っぱがピンとしているものがいい。 ・家の人チラシを見て安いかどうか見ている。 ・カレーは、家によって買うものが違うと思う。 ・ハムやツナ缶は３つまとまったものだった。他にも２、３つまとめて売っているものがある。その方が安い。 ・いつまで食べられるかを見る。（消費期限や賞味期限）	
３０	●選ぶポイントをまとめる。 ①値段 ②量 ③野菜は新鮮なもの ④いつも食べているもの ⑤消費期限や賞味期限	
３２	●活動してみて、友達のよかったことを発表する。 ・ちゃんと値段を見て選んでいた。 ・自分で安い方を確かめて選んでいた。 ・カレーの味、量を間違えないようにしていた。 ・分からないときに友達に聞いていた。	◇研究内容２：「協働的な学び」 ・自分が困った時に周りの人に聞くことができるように、ペアで 活動し、聞きやすい環境をつくる。 ・友達のよいところを発表する場面をつくる。 ・発表することができない場合…実物を準備し、どこを見たらよい か話せるようにする。 ・実物やパッケージを準備し、イメージをもちやすいようにする。 ・自分の意見がどの項目になるのか分かりやすい板書をし、全員が 発表しやすいようにする。
３６	【目指す子どもの姿（評価）】 ●めあての振り返りをする。 A 児 スーパーでも、にんじんが何 本入っているか、傷がないか よく見て選ぼう。 B 児 いつも家で買っているものか どうか確認することができ た。本番でもよく見て買おう。 C 児 値段を見て選んだ。３つで〇 〇円と安いものにできた。 D 児 ハムは値段や量、消費期限を 確認して選ぶことができた。 E 児 ジャムはいろいろ種類があっ て迷うけど、値段やいつも家 で買っているものを選んだ。	
４０	●教師から一人一人のよかったところについて聞く。	
４５	●次回の授業の確認をする。	

板書計画

たのまれたものについて、気をつけることをかくにんしよう。

1. 店に行く
2. 店に入る
3. 商品をえらぶ
4. レジに行く
5. お金をはらう
6. ふくろに入れる
7. 店を出る

A児 にんじん
にんじんは、しんせん
んなものをえらぶ。

- ・きずがない
- ・3本入りや1本
- ・ねだん
- ・やさいはしんせんな
もの（はっぱがピン）

B児 カレー粉
いつも家で買っ
ているもの。大きい
箱をえらぶ。

- ・甘口、中辛などあじ
- ・大きいはこ

C児 ツナ缶
3個まとまったも
のをえらぶ。

- ・ふくろ入りのもの
- ・まとまりやバラ
- ・りょう
- ・ねだん

D児 スライスハム
3つパックのもの
で、安くて量が多い
もの。

- ・好きな味のもの
- ・消費期限がおそいもの

E児 ジャム
イチゴジャムで
中くらいのビン
のものをえらぶ。

- ・いつも家で買って
いるもの
- ・中くらいのサイズ

〈えらぶポイント〉

- ねだん ○りょう ○やさいはしんせんなもの ○いつも食べているもの
○しょうひきげんや しょうみきげん

3年算数単元指導計画「13 分数」（全11時間）

①〔単元の目標〕

分数の意味と表し方や単位分数のいくつ分かで大きさを表すこと、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考え、簡単な場合の分数の加法、減法の意味について理解し、計算することができる。

知 1mや1Lを等分してできる部分の大きさを表すのに分数を用いることを知り、単位分数のいくつ分で大きさを表すことができることを理解している。和が1までの同分母の真分数どうしの加法及び減法の意味や計算の仕方について理解し、計算することができる。

考 単位分数に着目し、分数の大小比較や、簡単な加法及び減法の仕方を考え、説明することができる。

主 分数の意味や分数によって表すことのよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。

②〔評価規準〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①分数を用いた長さの表し方について理解し、1mを等分してできる1つ分の大きさを、分数を用いて表すことができる。 ②1mや1Lをn等分したいいくつ分の長さ及びかさを分数で表すことができる。また、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解している。 ③同分母分数の大小比較ができる。 ④1より大きい同分母分数を単位分数のいくつ分で表すことができる。 ⑤1/10または0.1を単位とした分数や小数の大小比較ができる。 ⑥同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方を理解し、計算することができる。 ⑦同分母の真分数どうしの減法の計算の仕方や和が1になる加法とその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。 ⑧分数の意味や表し方について理解し、同分母分数における大小比較や加法及び減法の計算をすることができる。	①単位分数の個数に着目し、分子の大きさを比べることで、分数の大きさを判断することができる。 ②同分母の真分数どうしの加法の意味や計算の仕方について、単位分数のいくつ分とみて整数や小数の加法と関係付けて考えている。 ③同分母の真分数どうしの減法の意味や計算の仕方について、単位分数のいくつ分とみて、整数や小数の減法と関係付けて考えている。 ④同分母の真分数どうしの加法の計算の仕方について、図などを用いて説明している。	①生活の場面から、分数を用いた長さの表し方について関心をもち、分数の意味や表し方について考えようとしている。 ②身の回りの物の長さに対して、様々な単位の分数のものさしを使って正確に測定しようしたり、分数を用いて表そうしたりしている。また、「2mの1/4」や「4mの1/4」の長さについて、図などを手掛かりにして、考えようとしている。 ③単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

小 単 元	時	学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分 数	1	1mの $\frac{1}{4}$ の長さを $\frac{1}{4}$ mと表すことを理解する。	◎知① （ノート分析）		主① （行動観察）
	2	1mを n 等分したいいくつかの長さや、1Lを n 等分したいいくつかのかさの表し方を理解する。また、「分母」、「分子」の用語とそれらの意味を理解する。	知② （ノート・ワークシート分析）		
	3	1mのテープを使って分数のものをさしをつくり、いろいろな物の長さを測定し、分数を用いて表す。 2m、4mの $\frac{1}{4}$ は $\frac{1}{4}$ mではないことから、量分数についての理解を深める。			◎主② （行動観察・ワークシート分析）
分 数 の 大 き さ	4	数直線を用いて分数の大きさについて調べ、同分母分数の大小比較の仕方や $\frac{5}{5}=1$ であることを理解する。	知③ （ノート・ワークシート分析）	◎考① （ノート分析・行動観察）	
	5	数直線を用いて1より大きい分数の大きさについて調べ、1より大きい分数も単位分数のいくつかで表せることを理解する。	◎知④ （ノート・ワークシート分析）		
分 数 と 小 数	6	数直線を用いて分数と小数の関係を調べ、 $\frac{1}{10}=0.1$ であることを理解し、分数と小数、分数と整数の大小を比較をする。	◎知⑤ （ノート・ワークシート分析）		
分 数 の 計 算	7 本時	同分母の真分数どうしの加法の意味や計算の仕方について理解し、説明することができる。	知⑥ （ノート分析）	◎考② （行動観察・ノート分析）	
	8	同分母の真分数どうしの減法の意味や計算の仕方について理解し、説明する。また、真分数どうしの和が1までの加法とその逆の減法の計算の仕方を理解し、計算する。	知⑦ （ノート分析）	◎考③ （行動観察・ノート分析）	
た し か め	9	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知⑧ （ワークシート分析）	考④ （ワークシート）	主③ （ふりかえり）
テ ス ト	10	テスト	◎知①④⑤ （ペーパーテスト）	◎考② （ペーパーテスト）	

※記録に残す評価を◎とする。

4年算数単元指導計画「1.1 小数」（全14時間）

①〔単元目標〕

1/1000の位までの小数の表し方や大きさ、大小などについて理解し、数の仕組みに着目して加法及び減法の計算の仕方を考え、筆算で計算することができる。

知 1/1000の位までの小数の表し方や構成、順序、系列、大小について理解し、小数の加法及び減法の計算が筆算でできる。

考 既習の学習をもとに、0.1よりも小さい単位をつくることを考えたり、数の仕組みに着目して、小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、説明したりすることができる。

主 既習の小数の学習をもとに、さらに小さい数の表し方や加減の計算方法について考えようとする。

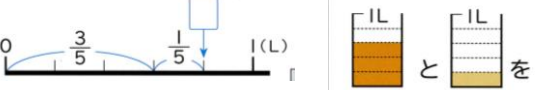
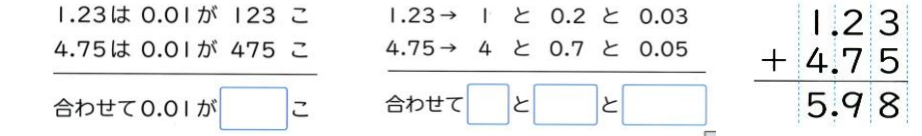
②〔評価規準〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①かさに関する測定値について、1/100の位までの小数の表し方や読み方を理解し、表したり読んだりすることができる。 ②長さに関する測定値について、1/100の位までの小数で表したり、読んだりすることができる。 ③具体的な測定値について、1/1000の位までの小数の表し方や読み方を理解し、表したり読んだりすることができる。 ④小数は整数と同じように十進数の仕組みになっていることや各位の名称を理解している。 ⑤小数を0.01や0.001をもとにして相対的にみて表すことができる。 ⑥1/100、1/1000の位までの小数の大小比較の仕方を理解している。 ⑦小数を10倍、100倍した数や1/10、1/100にした数について理解している。 ⑧1/1000の位までの小数の加法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 ⑨小数点以下の桁数が異なる加法や、答えの末尾が0になる加法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 ⑩1/100の位までの小数の減法の計算の仕方や筆算の仕方を理解し、計算できる。 ⑪小数点以下の桁数が異なる減法の筆算の仕方を理解し、計算できる。 ⑫1/1000の位までの小数の表し方や大小比較の仕方を理解し、加減の計算ができる。	①はしたの表し方について、0.1の単位をつくったときの考え方をもとに類推的に考えている。 ②小数を0.01や0.001のいくつ分で表す方法を考え、説明している。 ③小数の大小比較の仕方を、数の仕組みや数直線をもとに考え、説明している。 ④1つの小数を多面的にみて表すことができる。 ⑤数の仕組みに着目し、小数の加法の計算の仕方を、既習事項をもとに考え、説明している。 ⑥0.001をもとにして、1/1000の位までの小数の減法の計算の仕方を考え、説明している。	①1/100の位までの小数の学習をもとに、さらに小さい数も表せないかと、新しい問題を見いだしている。 ②数をいろいろな見方で表そうとしている。 ③小数の加法の学習をもとに、小数の減法もできないかと、新しい問題を見いだしている。 ④単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

小 単 元	時	学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数の表し方	1	1/100の位までの小数の表し方や読み方を理解する。	知① （ノート分析）	◎考① （行動観察）	
	2	1/100 の位までの小数を用いて、mの単位で長さを表す。	知② （ノート・ワークシート分析）		主① （行動観察）
	3	1/1000の位までの小数の表し方や読み方を理解する。	知③ （ノート・ワークシート分析）		
小数と整数のしくみ	4	0.001までの大きさを理解し、小数も十進位取り記数法に基づいていることを理解し、各位の名称を知る。	◎知④ （ノート・ワークシート分析）		
	5	小数を、数の構成をもとに、0.01を単位として相対的にみて表す。	◎知⑤ （ノート・ワークシート分析）	考② （行動観察）	
	6	小数と小数、小数と整数の大小比較の仕方を理解する。	知⑥ （ノート分析）	考③ （行動観察）	
	7	小数を10倍、100倍した数や、1/10、1/100にした数について理解する。	知⑦ （ノート・ワークシート分析）		
数の見方	8	1つの小数を多面的にみて表す。		考④ （行動観察）	◎主② （行動観察・ワークシート分析）
小数の計算	9 本時	小数の加法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知⑧ （ノート分析）	◎考⑤ （行動観察）	
	10	小数点以下の桁数が異なる加法や、答えの末尾が0になる加法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知⑨ （ノート分析）		主③ （行動観察）
	11	小数の減法の計算原理や方法、筆算の仕方を理解し、計算する。	知⑩ （ノート分析）		
	12	小数点以下の桁数が異なる減法の筆算の仕方を理解し、計算する。	知⑪ （ノート分析）		
たしかめ	13	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	知⑫ （ワークシート分析）	考⑥ （ワークシート）	主④ （ふりかえり）
テスト	14	テスト	◎知④⑤⑧ （ペーパーテスト）	◎考①⑤⑥ （ペーパーテスト）	

※記録に残す評価を◎とする。

■ 教科：算数科	■ 教材名：3年 分数（7/10） 4年 小数（9/14）
■ 授業者：池田 かおり	■ 授業学級：ひまわり3組（自閉症・情緒障がい学級 3年生4名、4年生3名）
（北舎1階 ひまわり3組教室）	
■ 本時の「ねらい」 ＜3年＞ A児：3/5+1/5の計算の仕方を考える活動を行い、1目盛りが1/5Lであることを確かめながら液量図に色を塗って考えることで、1/5のいくつ分をもとにして考えれば、小数で学習した時と同じように整数の計算で求められることに気づき、同分母の真分数どうしの加法の仕方を説明したり、正しく計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【心理的な安定2-（3）】液量図に色を塗ったり、仲間や教師の助言を聞いたりすれば、できることを理解し、自分から取り組むことができる。 B児：3/5+1/5の計算の仕方を考える活動を行い、線分図を使って1/5の3つ分と1つ分を足す操作を通して、1/5のいくつ分をもとにして考えれば、小数で学習したように整数の計算で求められることに気づき、同分母の真分数どうしの加法の仕方を説明したり、正しく計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【人間関係の形成3-（2）】困っている仲間に自分から関わり、教え合うことができる。 C児：3/5+1/5の計算の仕方を考える活動を行い、液量図の操作をすることで、1/5のいくつ分をもとにして考えれば、整数の計算で求められることに気づき、同分母の真分数どうしの加法の仕方を説明したり、正しく計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【コミュニケーション6-（5）】自分なりの方法で考えを伝えたり、仲間からのアドバイスに耳を傾けたりすることができる。 D児：3/5+1/5の計算の仕方を考える活動を行い、液量図に色を塗って考えたり、1/5のいくつ分をもとにして考えたりすれば、小数で学習したように整数の計算で求められることに気づき、同分母の真分数どうしの加法の仕方を説明したり、正しく計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【環境の把握4-（5）】自席に座る時間を増やし、手元に学習の流れを示したカードを見ながら見通しをもって学習に向かうことができる。 ＜4年＞ E児：小数の加法のしかたを考える活動を行い、これまでにあった1/10の位までの小数の加法の考え方を使えば、0.01のいくつ分かで考えればいいことに気づき、小数の加法の計算の仕方を説明したり、筆算で求めたりすることができる。【思考・判断・表現】 【コミュニケーション6-（5）】適切な声の大きさで、ノートやホワイトボードを使用して、自分の考えを伝えたり、相手の立場に立って話を聞き、考えを認めたりすることができる。 F児：小数の加法のしかたを考える活動を行い、前学年で学習した小数の加法の筆算を想起し、位をそろえて計算すれば1/100の位までの加法の計算もできることに気づき、筆算の仕方を説明したり、計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【コミュニケーション6-（2）】話す人の方を見て、相手の話を最後まで聞ききることができる。 G児：小数の加法のしかたを考える活動を行い、位ごとに分けたり、0.01をもとにして考えたりすれば、筆算を使って計算できることに気づき、小数の加法の計算の仕方を説明したり、位をそろえて筆算を使って計算したりすることができる。【思考・判断・表現】 【心理的な安定2-（2）】見通しをもって最後まで活動に取り組むことができる。	
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】3年：もとになる分数のいくつ分かで考える。4年：もとになる小数のいくつ分かで考えたり、位ごとに分けて考えたりする。	

時間	●学習活動		・児童の姿		「ねらい」にせまるための手立て
	3年	4年	3年	4年	
課題化	●課題をつくる 問題：ジュースが3/5L入っているパックと1/5L入っているパックがあります。1つのびんに入れると、何Lになりますか。 ・「1つのびんに入れる」から、たし算だね。 ・式は3/5+1/5だね。 ・小数のたし算の時と同じようにできるかな。	●問題を貼ったら、プリント学習で前時までの復習をする ●課題をつくる 問題：水が1.23L入っているバケツと、4.75L入っているバケツがあります。1つの水そうに入れると、何Lになりますか。 ・1つの水そうに入れるんだから、たし算だね。 ・式は1.23+4.75だね。 ・およそ6Lかな。			◇研究内容1：「個別最適な学び」 ・児童のつまずきに応じて、個別に支援方法を考え、準備しておく。追究方法で困った場合、児童が必要に応じて選択できるようにする。 3年： ・操作のできる液量図 ・書き込むことのできる液量図や線分図（ワークシート） ・教科書P186のりなさんの言葉（ワークシート） ・小数で学習した考え方（0.1のいくつ分）の提示 ・それでもわからない場合は、個別に対応する。 4年： ・3年時に学習した小数の計算について書いたカード ・操作のできる図形 ・教科書P184ゆうとさんやゆいさんの考え方（ワークシート） ◇研究内容2「協働的な学び」 ・ホワイトボードやノートを用いて、対話を進められるようにする。対話の視点を示すことで、仲間と追究することができるようにする。 3年：机を近づけ、話し合いのできる雰囲気を作ってから、ノートやホワイトボードを用いて対話を進められるようにする。 4年：ノートやホワイトボードを持ち寄り黒板に集まって、実際に操作したり指し示したりしながら話し合うことで、対話を進めることができるようにする。
個人追究	●課題を追究する ・図に書き込んで考えてみよう。 ・分数の線を使って考えよう。 ・図の中のジュースを動かしてみたらできそうだよ。 ・小数の時のように、1/5をもとにして考えたらできそうだよ。  課題：どうやって答えをもとめればいいのかな。	0.5+0.3の時は、どのように計算したのかを想起させ、0.1をもとにして計算したことを確かめる。 ●課題を追究する ・0.01のいくつ分かで考えれば、123+475で0.01が598個になるよ。 ・3年生の時と同じように、筆算でやればいいんじゃないかな。 ・位で分けて計算して、あとで合わせればいいよ。  課題：どうやって計算すればいいだろう。			
対話	●対話活動を行う ・一人一人の考えをホワイトボードやノートを使って説明する。 3/5+1/5=4/5 答え4/5L ●まとめる ・もとになる分数は1/5になる。 1/5のいくつ分かを考えれば答えをもとめることができる。	●対話活動を行う ・一人一人の考えをノートやホワイトボードを使って説明する。 ⇒みんな同じ位どうしをたし算しているね。 1.23+4.75=5.98 答え5.98L ●まとめる 0.01のいくつ分かを考えたり、位ごとに分けたりすれば計算できる。 ・筆算の仕方の確認をする。			【対話の視点】3年：わからないことをしつもんしよう。 4年：自分とにているところはどこか考えながら聞こう。
	●たしかめ問題に取り組む（P186□1） ●練習問題に取り組む プラスワンP259コ、GIFU Webラーニングから、自分で選択して取り組む。 ●高まりを表出する（文で表現できない児童は、マークで示す） ・小数のたし算の時と同じように、たし算ができたよ。 ・分数のたし算の仕方が分かったよ。 ●担任による評価	【目指す子どもの姿（評価）】 1/4+2/4の計算は、1/4をもとにして考えれば、1/4が1+2こ分になるよ。 ●たしかめ問題に取り組む（P184□1） ●練習問題に取り組む プラスワンP283キ、GIFU Webラーニングから、自分で選択して取り組む。 【目指す子どもの姿（評価）】 3年生の時と同じように、位をそろえて位ごとに計算したら、筆算で答えを求めることができたよ。 ●高まりを表出する（文で表現できない児童は、マークで示す） ・位をそろえることが大事だと分かったよ。 ●担任による評価			
演習					

板書計画

3年

11/13 分数

④ どうやって答えをもとめればいいのか。

ジュースが $\frac{3}{5}$ L 入っているパックと

$\frac{1}{5}$ L 入っているパックがあります。

1つのびんに入れると、

何Lになりますか。

児童の考え

児童の考え

児童の考え

児童の考え

式 $\frac{3}{5} + \frac{1}{5} = \frac{4}{5}$

$\frac{1}{5}$ が3こ

$\frac{1}{5}$ が1こ

$\frac{1}{5}$ が4こ

答え $\frac{4}{5}$ L

⑤ $\frac{1}{5}$ のいくつかを考えれば

答えをもとめることができる。

🚩

P259コ

ウェブラーニング

4年

11/13 小数

④ どうやって計算すればいいだろう。

$1 + 5 = 6$ (およそ)

児童の考え

児童の考え

児童の考え

式 $1.23 + 4.75 = 5.98$

ひっ算

1.23

$+ 4.75$

5.98

← 位をそろえる

0.01 が123こ

0.01 が475こ

0.01 が598こ

答え 5.98 L

⑤ 0.01 のいくつかを考えたり、位ごとに
分けたりすれば計算できる。

🚩

P283キ

ウェブラーニング

単元構想図 単元名 せつめいする文しょうを よもう「じどう車くらべ」（第1学年）

【出口で目指す姿】

【知識及び技能】

・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している児童。【（2）ア】

【思考力、判断力、表現力等】

・ 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる児童。【C（1）ア】

・ 文章中の重要な語や文を考えて選び出すことができる児童。【C（1）ウ】

【学びに向かう力、人間性等】

・ 進んで説明における順序を考えながら読み、自分が説明をするときに活かしたいことを見付けようとしている児童。

【単元のつながり】

1年 「どうぶつのあかちゃん」

特徴の違いなどを比べて読み、分かったことを伝え合う。

学習計画	評価規準・評価方法	記録
第7時 はしご車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。【知識及び技能（2）ア】 進んでこれまでの学習を生かして、はしご車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。【学びに向かう力、人間性等】 ● はしご車のしごととつくりをまとめよう。	【主体的に学習に取り組む態度】記述分析 ・ 既習事項を生かして、はしご車の「しごと」にあった「つくり」を捉えて説明しようとしていることの確認	○
第6時 事例の提示順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えることができる。【知識及び技能（2）ア】 ● このじゅんばんで車がでてきたわけをかんがえよう。	【知識・技能】記述分析 ・ 説明の内容の順序の意図に気付いていることの確認	○
第5時（本時） 説明を読み、クレーン車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ● クレーン車のしごととつくりをみつけよう。	【思考・判断・表現】記述分析 ・ 「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉と挿絵から考えていることの確認	○
第4時 説明を読み、トラックの「しごと」と「つくり」を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】 ● トラックのしごととつくりをみつけよう。		
第3時 説明を読み、バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 ● バスやじょうよう車のしごととつくりをみつけるこつはなにかな。	【思考・判断・表現】記述分析 ・ 書かれている内容の順序に沿って読み取っていることの確認	○
第2時 問いの文や出てきた自動車について確かめながら、内容の大体をとらえることができる。【思考力、判断力、表現力等C（1）ア】 ● どんなことがかかかれているかな。		
第1時 《単元を貫く課題》 じぶんのすきなじどう車のしょうかいカードをつくろう。 自動車にはそれぞれの「しごと」と「つくり」があることに気付き、学習の見通しをもつことができる。 ● どんなじどう車をしっているかな。	ここでは、「記録に残す評価」のみを位置付けているが、学習内容を確実に習得できるようにするため、「指導に生かす評価」を単元を通して適宜行う。	

【既習内容】

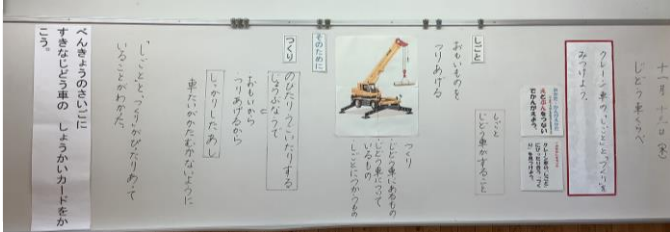
1年「つぼみ」

「うみの かくれんぼ」

「問い」と「答え」を捉えて読む。

大事な言葉を確かめながら読む。

■ 教科：国語科	■ 教材名： 1年 じどう車くらべ（5/7）
■ 授業者：石地 千佳子	■ 授業学級：ひまわり6組（聴覚学級 1年生 2名）
■ 本時の「ねらい」 A児：クレーン車のしごとを理解して、「しごと」と「つくり」の関係を表す言葉「そのために」を手がかりに、「しごと」と「つくり」をつないで考えることができる。【思考・判断・表現 C（1）ウ】 【人間関係の形成 3ー（2）】困っている仲間に関わり、教え合うことができる。 B児：クレーン車のしごとが分かり、挿絵と文をつないで、「しごと」にあった「つくり」を見つけることができる。【思考・判断・表現 C（1）ウ】 【心理的安定 2ー（3）】やることが分かり、粘り強く学習に取り組むことができる。	
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】挿絵と文をつないで考える。	

●学習活動		・児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
A 児		B 児	
●「ぞうさんのぼうし・きって」を音読する。 （読む速さに気を付けて音読する。）		●「ぞうさんのぼうし・きって」を音読する。 （発音に気を付けて音読する。）	◇研究内容1：「個別最適な学び」 ●児童の実態に応じて、個別に支援方法を考え、対応する。 【A児】 ・前時までの学習を想起させ、本文のしごととつくりを表す文章中の言葉「しごと」「つくって」「ついて」と、しごととつくりをつなぐ「そのために」に着目させる。 ・クレーン車のしごとについて知っていることを思い出させる。 【B児】 ・「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉「そのために」がどこに書かれているか確かめる。 ・本文の内容を読み取ることができるように、教師が範読しながら問いかけて「しごと」と「つくり」を見つけさせる。 ・「つくり」を挿絵で確かめる。 ・挿絵と本文をつないで、「しごと」と「つくり」を確かめる。
● 単元を貫く課題を確認する。 ● 前時の振り返りをする。 ・トラックの「しごと」と仕事に合った「つくり」になっている。 ・「しごと」「そのために」「つくり」の順序で説明されている。			
● 課題提示 課題： クレーン車の「しごと」と「つくり」をみつけよう。			◇研究内容2：「協働的な学び」 ●対話の視点を示すことによって、挿絵と文をつないで「しごと」に合う「つくり」を確認することができるようにする。 ●互いの考えを聞き合い、同じことでも自分の言葉で話すことができるようにする。
● 「しごと」と「つくり」の文を見つめながら、音読する。 ● 個人追究（一人学び） ・クレーン車の「しごと」と「つくり」が書かれている文に線を引く。 <しごと> ・「クレーン車はおもいものをつり上げるしごとをしています。」と書いてあるので、「おもいものをつり上げるしごと」に線を引けばいいな。 <つくり> ・「そのために」のあとに書いてあるから、「じょうぶなうでがのびたり、うごいたりする。」と、「しゃたいがかたわかないように、しっかりとしたあしがついている。」がつくりだな。		● 「しごと」と「つくり」の文を見つめながら、教師の音読の追い読みをする。 ● 個人追究（一人学び） ・クレーン車の挿絵を見て、「しごと」と「つくり」を確かめて教師に話す。 ・「しごと」と「つくり」が書かれている文に線を引く。 <しごと> ・挿絵では物をつり上げているから、おもいものをつり上げるしごとをしているな。 <つくり> ・ながいうでがある。 ← 補：どんなうでで、どのようにうごいているか ・あしがついている。 ← 補：どんなあしがついているか	
● 仲間学び ・根拠を明確にして挿絵と文をつなぎながら、「しごと」にあった「つくり」を確かめる。 ・クレーン車は、人の力では持てない重い物を持ち上げるから、うでがじょうぶになっている。 高いところのものを運べるように、うでがのびたり、うごいたりするしくみになっている。 ・持ち上げたときにたおれないように、しっかりとしたあしがついている。		・絵のように、じょうぶなうでがのびたり、うごいたりして、重い物を持ち上げている。「こんなふうにつりあげているよ。」（身体表現） ・すぐく力があるから、ふんばっても動かないように、ペタッと地面についている。（挿絵活用）	◇対話の視点 クレーン車の「しごと」にぴったり合う「つくり」を見つけよう。 ・挿絵を指しながら、「しごと」と「つくり」をつないで説明をし合っていることを評価する。 ・対話によって、クレーン車の「しごと」にあった「つくり」になっていることの理解が深まったことを評価する。
・重い荷物をあつかっているのに、「トラック」にはじょうぶなあしがいないのはなぜか考える。 ・「荷物を載せて運ぶ仕事」がしやすいつくりになっている。 ・タイヤがたくさんついているから倒れないので、あしはない。		・トラックは走って荷物を運ぶから、あしがあると走れない。 ・広い荷台があるから、荷物は落ちないのであしはない。	
● まとめ クレーン車の「しごと」と「つくり」をワークシートに書き込む。		● まとめ クレーン車の「しごと」と「つくり」をワークシートに書き込む。	◇個々の自立活動の課題に対する支援 【A児】 ・仲間の反応を見ながら自分の考えを伝えたり、質問をしたりすることができるように、仲間の発言を聞いたあとに、自分の考えを話すことができるように言葉かけをする。 【B児】 ・自分の考えを身体表現を使って伝えることができる場を設け、「しごと」と「つくり」のつながりの理解を深める。 ・文字を書くところが少ないプリントを用意し、教科書の言葉や文を正しく選ぶことができるようにすることで、学習意欲を継続させる。
【目指す子どもの姿（評価）】 ・クレーン車は、重い荷物をつり上げるしごとをするから、じょうぶなうでとしっかりしたあしがついていることがわかった。 ・「しごと」「そのために」「つくり」の順番でかいてあるからわかりやすい。		【目指す子どもの姿（評価）】 ・クレーン車の「しごと」がわかったよ。挿絵と文の「つくり」をつなげると、つくりがよくわかった。 ・しごとにあったつくりになっている。	
● 教師の評価		● 教師の評価	

単元構想図 自立活動「めざせ、お話名人～仲間と楽しめるクイズを作ろう～」(全5時間)

【単元の目標】

- ・相手意識をもってクイズの問題を出したり、集中して問題を聞いてクイズに答えたりすることができる。
- ・学習したカタカナや漢字をクイズ作りの中で使うことができる。
- ・クイズの問題作りの中で、物の名前を表す言葉だけではなく、動きや様子を表す言葉を使って表現するとともに、生活の中で使える言葉を広げることができる。
- ・活動全体に見通しをもち、気持ちを切り替えながら自分で活動を進めることができる。

【出口の姿・今後の学習】

- ・まなびの教室でできるようになったことを自学級でも生かそうとしている。
- ・カタカナや漢字の学習に前向きに取り組むことができる。
- ・まなびの教室で作ったクイズを学級の仲間や家族と楽しむことができる。
- ・経験したことや自分の考えを相手に分かるように伝えられるように語彙を増やしたり表現の仕方を学んだりする。

【学級担任との連携】

- ・まなびの教室での授業前に、自学級で今行っている学習の内容や、それに対する本児の様子について聞き取りを行う。できている力をまなびの教室でも使って活動する。
- ・まなびの教室での本児の取り組みの様子について連絡帳に書いて知らせたり、口頭で報告したりする。まなびの教室でできるようになったことを共有するとともに、有効な手立てについて学級でも生かせるところはないか検討をする。
- ・まなびの教室でできるようになったことを生かし本児が主体的に参加できる活動を自学級で行う。

5

学級の仲間にクイズを出そう。(朝学習「もりもりタイム」)

- ・今まで作った「私はだれでしょう？」クイズを学級の仲間のことを考えて出題することができる。
- ・仲間にクイズを出題した時の様子を思い出し、観点に沿って振り返ることができる。

【太陽時間や昼休み等の休み時間】
学級の仲間にクイズを出題する。

【通教指導教室の時間】

- ①お話タイム 今の気分 本時の見通し(チャレンジタイムに取り組む活動を決める。)
- ②スタディタイム 学級からの課題に取り組む。
- ③トレーニングタイム 体を動かしながらカタカナを読み、ことば集めをする。
- ④スキルタイム 学級の仲間にクイズを出した時のことを振り返ろう。
- ⑤チャレンジタイム 記録に挑戦しよう。
- ⑥メッセージタイム 今までの取り組みで、できるようになったことを振り返り、今後に生かしたいことを話そう。

休み時間

- ・相手の顔を見て話すこと、声の大きさや話す時の速さ、間の取り方に気を付けてクイズを出すことができる。
- ・仲間に対して温かい反応を返すことができる。

通級指導教室の時間

- ・「もりもりタイム」で学級の仲間にクイズを出題した時の様子を振り返ることができる。
- ・この単元の取り組みでできるようになったことやこれからの学習に生かしたいことを話す。

時	学習活動	評価
願う姿	活動内容	規準

4(本時)

「私はだれでしょう？」料理問題を作ろう。～もっといい問題にしよう。～

- ・クイズのお題にしたい料理を自分で選ぶことができる。
- ・お題の料理に合うヒントを考えてカードに書くことができる。
- ・ヒントを書いたカードを並び替えたり書き換えたりしてよりよい問題を作る。
- ・自分の問題を、相手意識をもって出題することができる。
- ・教師が作った問題に意欲的に答えることができる。
- ・お互いが作った問題の良い所を話し合うことができる。

- ①お話タイム 今の気分 本時の見通し(チャレンジタイムに取り組む活動を決める。)
 - ②スタディタイム 学級からの課題に取り組む。
 - ③トレーニングタイム 体を動かしながらカタカナを読み、ことば集めをする。
 - ④スキルタイム 「私はだれでしょう？」料理問題を作ろう。(違う料理の問題を作る。) ヒントを書いたカードを並び替えたり書き換えたりしてよりよい問題にする。
 - ⑤チャレンジタイム お互いに作ったクイズを出し合う。
 - ⑥メッセージタイム 自分の記録に挑戦しよう。
- 今日の取り組みで、できるようになったこと、分かったことを振り返ろう。

- ・お題にしたい料理を自分で選ぶことができる。
- ・お題にした料理の材料や作る時の道具、特徴を想起して、ヒントに生かすことができる。
- ・学習した漢字やカタカナを使ってカードに問題を書くことができる。
- ・ヒントを書いたカードを並び替えたり書き換えたりしてよりよい問題になるように工夫することができる。
- ・相手意識をもって問題を読むことができる。
- ・教師からの出題を集中して聞き、答えることができる。

3

「私はだれでしょう？」料理問題を作ろう。

- ・クイズのお題にしたい料理を自分で選ぶことができる。
- ・お題の料理に合うヒントを考えてカードに書くことができる。
- ・自分の問題を、相手意識をもって出題することができる。
- ・教師が作った問題に意欲的に答えることができる。
- ・お互いが作った問題の良い所を話し合うことができる。

- ①お話タイム 今の気分・本時の見通し(チャレンジタイムに取り組む活動を決める。)
- ②スタディタイム 学級からの課題に取り組む。
- ③トレーニングタイム 体を動かしながらカタカナを読み、ことば集めをする。
- ④スキルタイム 「私はだれでしょう？」料理問題を作ろう。(同じ料理の問題を作る。) お互いに作ったクイズを出し合う。
- ⑤チャレンジタイム 自分の記録に挑戦しよう。
- ⑥メッセージタイム 今日の取り組みで、できるようになったこと、分かったことを振り返ろう。

- ・お題にしたい料理を自分で選ぶことができる。
- ・お題にした料理の材料や作る時の道具、特徴を想起して、ヒントに生かすことができる。
- ・学習した漢字やカタカナを使ってカードに問題を書くことができる。
- ・相手意識をもって問題を読むことができる。
- ・教師からの出題を集中して聞き、答えることができる。

2

「私はだれでしょう？」くだもの問題を作ってみよう。

- ・クイズのお題にしたいくだものを自分で選ぶことができる。
- ・お題のくだものに合うヒントを考えてカードに書くことができる。
- ・自分の問題を、相手意識をもって出題することができる。
- ・教師が作った問題に意欲的に答えることができる。

- ①お話タイム 今の気分 本時の見通し(チャレンジタイムに取り組む活動を決める。)
- ②スタディタイム 学級からの課題に取り組む。
- ③トレーニングタイム 体を動かしながらカタカナを読み、ことば集めをする。
- ④スキルタイム 「私はだれでしょう？」くだもの問題を作ろう。 お互いに作ったクイズを出し合う。
- ⑤チャレンジタイム 自分の記録に挑戦しよう。
- ⑥メッセージタイム 今日の取り組みで、できるようになったこと、分かったことを振り返ろう。

- ・お題にしたいくだものを自分で選ぶことができる。
- ・お題にしたくだものの形や色、特徴を想起して、ヒントに生かすことができる。
- ・学習した漢字やカタカナを使ってカードに問題を書くことができる。
- ・相手意識をもって問題を読むことができる。
- ・教師からの出題を集中して聞き、答えることができる。

1

「私はだれでしょう？」先生問題をやってみよう。

- ・教師の説明を聞き、「スリーヒントクイズ」を作ったことと結びつけながらどんな活動をするのか理解することができる。
- ・教師が作った問題に意欲的に取り組める。
- ・自分も問題を作って、家族や学級の仲間と一緒にやってみたいという意欲をもつことができる。

- ①お話タイム 今の気分 本時の見通し(チャレンジタイムに取り組む活動を決める。)
- ②スタディタイム 学級からの課題に取り組む。
- ③トレーニングタイム 体を動かしながらことばの練習をしよう。
- ④スキルタイム 「私は誰でしょう？」先生問題をやってみよう。
- ⑤チャレンジタイム 自分の記録に挑戦しよう。
- ⑥メッセージタイム 今日の取り組みで、できるようになったこと、分かったことを振り返ろう。

- ・教師が出す「私はだれでしょう？」クイズのヒントを集中して聞き、答えることができる。
- ・「私はだれでしょう？」クイズ作りの活動の仕方が分かる。
- ・自分も問題を作ってみようという意欲をもつことができる。

【家庭・専門機関との連携】

- ・個別の教育支援計画を作成し、本児の願う姿や、願う姿に向かうための手立てについて共通理解する。
- ・まなびの教室の連絡帳を通して、学習の様子やできるようになったことを共通理解し、家庭でも認め励ましてもらうことで本児の自己肯定感を高める。
- ・まなびの教室での指導の実態や本児の様子、できるようになったことをリハビリの先生にも知っていただく。
- ・リハビリの様子を見学する。
- ・指導方法について共通理解するとともに、より有効な方法について情報を共有する。

まなび1教室（LD／ADHD等 通級指導教室）自立活動学習指導案

場 所： まなび1教室（北舎3階）

授業者： 森永 恵

1 単元名 めざせ、お話名人～仲間と楽しめるクイズを作ろう～

2 指導構想

（1）児童の実態（4年女子）

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態把握	・健康で休まずに登校することができる。	・日常生活全般には、明るく活発で、何事にも意欲的に取り組むことができる。 ・学習する際に自信がないと引っ込み思案になることがある。 ・自分の思いを上手く伝えられなくて泣いてしまうことがある。	・誰とでも仲良く関わるができる。 ・自分から関わりをもとうとすることができる。 ・自分の思いを言葉で伝えようとはするが、語彙が少なく思うように伝わらない時がある。	・聞くだけでは理解が難しい時があり、個別に説明を受けた後実際にやってみたりすると理解できる。 ・何事にも意欲的に取り組もうとするが、理解できないことが続くと諦め集中が続かなくなる。	・ダンスが得意で踊りのパターンを覚えて上手に踊ることができる。 ・マット運動が得意である。	・発達性読み書き障がいと診断されている。月に2回高山赤十字病院で言語リハビリを受けている。 ・経験したことを意欲的に話そうとするが、相手に伝わるようにまとめて話すことが難しい。インタビュー形式だと短い言葉で話すことができる。 ・文字の書字への抵抗感が強い。意欲的に学習に取り組むが定着が困難である。学習したことを生活の中で生かすことが難しい。

（2）指導目標

- ・生活の中で使える語彙を増やし、自分の考えを、相手意識をもって伝えることができる。
- ・学習した漢字やカタカナを使い、自分の考えを後で見分けるように整理して書くことができる。
- ・活動に見通しをもち、気持ちを切り替えながら取り組むことができる。

（3）項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目		2－（2） 状況の理解と変化への対応に関する事。 2－（3） 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。	3－（2） 他者の意図や感情の理解に関する事。 3－（3） 自己の理解と行動の調整に関する事。	4－（2） 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 4－（4） 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関する事。		6－（2） 言語の受容と表出に関する事。 6－（3） 言語の形成と活用に関する事。 6－（5） 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

（4）具体的な指導内容

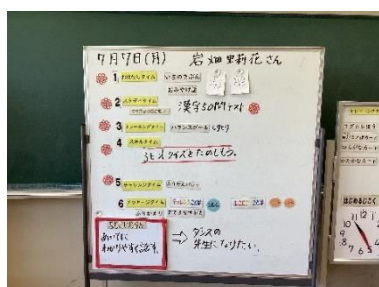
①書く活動に意欲的に取り組むことができる。 ・カタカナやひらがなのカードを使い体を動かしてマッチングをしたり言葉作りをしたりして、楽しく文字と触れ合うようにする。 ・クイズを作る時に自分の考えをメモしたり、作ったクイズの問題を整理して書いたりする。 ・学習した漢字やカタカナを活動の中で使う。	②相手意識をもって話したり聞いたりすることができる。 ・「お話タイム」を毎時間設け、体験したことを話し方のヒントカードを見ながら伝える。 ・クイズの問題を出題したり教師からの問題を聞いて答えたりする活動を通して、相手意識をもち、意欲的に話したり聞いたりすることができる。	③自分のよさやできるようになったことに気づき、生活の中で生かそうとすることができる。 ・「メッセージタイム」で毎時間、頑張りやできるようになったことを自覚できるようにすることで自己肯定感を高めるとともに、通級指導教室以外の場でもできるようになったことを生かそうと意欲がもてるようにする。
---	---	--

3 単元の目標

- ・相手意識をもってクイズの問題を出したり、集中して問題を聞いてクイズに答えたりすることができる。
- ・学習したカタカナや漢字をクイズ作りの中で使うことができる。
- ・クイズの問題作りの中で、物の名前を表す言葉だけではなく、動きや様子を表す言葉を使って表現するとともに、生活の中で使える言葉を広げることができる。
- ・活動全体に見通しをもち、気持ちを切り替えながら自分で活動を進めることができる。

■ 領 域：自立活動	■ 単 元 名：めざせ、お話名人～仲間と楽しめるクイズを作ろう～ (4/5)	
■ 授業者：森永 恵	■ 授業教室：まなび 1 (LD/ADHD 等通級指導教室) 4 年児童	
■ 本時の「ねらい」 ・クイズのお題にしたいものを自分で選び、その特徴を生かして問題文を書くことができる。 ・問題文を書いたカードを並べ替えたり書き換えたりしてよりよい問題にすることができる。 【人間関係の形成 3- (3)】【コミュニケーション 6- (3)】		
時間	● 学習活動 ・ 児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
0	● お話タイム ・「今の気分」を表情カードと照らし合わせながら話す。 ・本時の学習の流れと課題を確認する。 ・チャレンジタイムにすることを選ぶ。	◇研究内容 1：「個別最適な学び」 ●「仲間に自分の思いを分かりやすく伝えられるようになりたい。」という本児のなりたい姿を目指し、本児自身が取り組む活動を選択できるようにする。 ・「お話タイム」では、本児が話したいことの要点に着目して話せるように 5W1H が書いてある「話すことカード」を示す。自分からそれを活用して話せた時にはほめ認める。 ・主体的に活動に取り組めるようにするために、本時の流れを掲示する。
5	● スタディタイム 自学級からの学習課題に取り組む。	・「スタディタイム」では、担任と連携し、大切な内容に重点的に取り組めるように問題を精選しておく。
1 5	● トレーニングタイム カタカナことば集めをする。 ・体を動かしてカタカナカードを集めよう。 ・時間内にいくつかのカタカナことばを集められるかな、挑戦しよう。	・「トレーニングタイム」には、体を動かすことが大好きな本児のよさを生かし、さらにスキルタイムの内容と関わるカタカナ中心の課題に取り組む。 ・「スキルタイム」のクイズ作りでは、はじめに前時の問題を解いて活動の見通しがもてるようにする。
2 0	● スキルタイム 「私はだれでしょう？」料理問題を作る。 料理問題をもっと楽しめるものにするには、どうしたらいいかな。 ①料理問題のお題を選んで問題を作ろう。 ・料理のどんな所に注目すると問題ができるかな。 ②お互いに考えた問題に挑戦しよう。 ③もっと楽しい問題になるように工夫しよう。 ・先生問題の文はどんな順番になっているかな。 ・問題文は料理のどんな所に注目して書くとういかな。 ・問題文はどんな順番で読むといいかな。 【目指す子どもの姿（評価）】 問題文を書いたカードを並べ替えたり書き換えたり、学習した色々な種類の言葉を使ったりして、よりよい問題にしようと工夫している。	・「チャレンジタイム」には、本児が取り組みたい活動に加えて本児のなりたい姿に迫ることができる内容を含んだ「先生チャレンジ」にも取り組めるようにする。 ◇研究内容 2：「協働的な学び」 ●本児が作ったクイズを自学級の仲間に出す活動を目指し、教師とのやり取りを通して相手意識が高められるようにする。 ●教師も本児と一緒にクイズ作りをし、できあがったものをお互いに出題し合って楽しんだり問題の内容を比べたりできるようにする。
3 5	● チャレンジタイム ダーツ、縄跳び、マナー豆、ボルトス等の中から自分が頑張りたいものを選び、記録に挑戦する。	・問題文が思い浮かばない時にはお題の特徴を書いたカードを示して参考にできるようにする。そのカードを利用したい時には自分から申し出ることができるように促す。
4 0	● メッセージタイム なりたい自分と照らし合わせて本時の取り組みを振り返る。 ・お題にする料理の味やにおい、作る時に使う道具に注目すると問題文を書くことができるよ。 ・先生が作ったクイズの問題文と比べてみると工夫するといいい所が分かるよ。 ・問題を読む順番を変えると、その問題の楽しさも変わるんだね。仲間に問題を出す時に気を付けてみよう。	・今までにまなびの教室で取り組んだ漢字やカタカナをまとめておき、それらを活用することができるようにする。 ・問題文の一文を一枚のカードに書き、それを並べ替えて問題を出す順番を工夫できるようにする。
4 5		

板書計画



単元構想図 自立活動 チャレンジ！なりたい自分「お話名人」

【単元の目標】

- ・道具や言葉を使って自分らしく考えたり表現したりする学習を行うことで、自分の気持ちや様子を表現することができる。
- ・力行音とタ行音の構音トレーニングを行うことで、明確な発音になるように改善する。
- ・活動を選択できる場を設定し、主体的に取り組むことができる。

【出口の姿】

- ・相手に伝わるように話せたことを実感することができる。
- ・タブレットの録音機能で、前回と今回の音読を聞き比べて、自分の成長を感じることができる。
- ・語彙力やコミュニケーション力を高める。



時	ねらい	主な学習活動	評価
6	「力行音」や「タ行音」の語内位置が変わったり発話速度を速めたりしても、正しく発音したことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・舌の位置を意識しながら発音練習をする。 ・前と今との自分の発音を見比べ、舌の位置を意識したことや本時で高まったことを話す。	言葉を意識して発音できたと実感することができる。
5	「ケ音」や「テ音」の語内位置が変わったり発話速度を速めたりしても、正しく発音したことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・舌の位置を意識しながら発音練習をする。 ・前と今との自分の発音を見比べ、舌の位置を意識したことや本時で高まったことを話す。	言葉を発音できたと実感することができる。
4	「コ音」や「ト音」がある言葉や文の練習を通して、前時で学習したことを表現したり説明したりしながら言葉を読めたことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・舌の位置を意識しながら発音練習をする。 ・前と今との自分の発音を見比べ、舌の位置を意識したことや本時で高まったことを話す。	言葉を意識して発音できたと実感することができる。
3 (本時)	「ク音」は後舌を軟口蓋に当てると発音しやすく、「ツ音」は舌端を上歯茎に力を入れて当てると発音しやすいことに気づき、ク音やツ音の違いをはっきりさせながら言葉や文を相手に伝えるように読めたことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・舌の位置を意識しながら発音練習をする。 ・前と今との自分の発音を見比べ、舌の位置を意識したことや本時で高まったことを話す。	言葉を意識して発音できたと実感することができる。
2	タブレットの録音機能を操作して、「カ音」と「タ音」のつく言葉や文を正しく発音したことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・前と今との自分の発音を見比べ、舌の位置を意識したことや本時で高まったことを話す。	録音した言葉を聞き比べて、違いを伝えることができる。
1	「カ音」や「タ音」がある言葉や文の練習を通して、舌の位置によって発音が変わることに気づき、カ音やタ音の違いをはっきりさせながら言葉を読めたことを実感することができる。	・身体の体操、口・舌の体操をする。 ・語音弁別・音読・舌の位置を確認する。 ・舌の位置を意識しながら発音練習をする。	言葉を意識して、発音できたと実感することができる。

ことばの教室(言語通級指導教室) 自立活動 学習指導案

場 所：ことばの教室（北舎４階）

授業者：北山 晃英

１．単元名 チャレンジ！なりたい自分「お話名人」

２．指導構想

（１）児童の実態（２年男子）

１－（５） 健康状態の維持・改善	２－（３） 障がいによる学習上・生活上の困難を改善・克服する意欲	３－（３） 自己の理解と行動の調整	４－（５） 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	５－（１） 姿勢と運動・動作の基本的技能	６－（３） 言語の形成と活用
	様々な学習活動やゲームの要素を取り入れ、意欲的に学ぶことができる。	タブレットのビデオ機能を使って自分の声を録音し、前回と今回の音読を聞き比べて自分の成長を感じ取ることができる。	児童が視点を意識できるようにモジュールにした活動内容ごとに自己評価し、振り返りながら進める。	姿勢保持のチェックポイントを自分で確認し、正しいフォームで座ることができる。	言葉のやりとりを楽しみながら口形を正しくして発音することで、語彙力やコミュニケーション力を高める。

（２）指導目標

- ・言葉を使って考えたり表現したりする学習を数多く体験することで、自分の気持ちや様子を表現することができる。
- ・構音トレーニングを行うことで、明確な発音になるように改善する。

（３）項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目			３－（３） 自己の理解と行動の調整に関すること。	４－（４） 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握や状況に応じた行動に関すること。		６－（１） コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

（４）具体的な指導内容

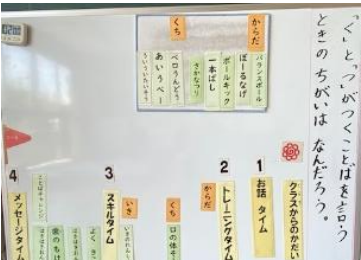
①言葉を使って考えたり表現したりする学習を数多く体験する。 ・先生の発音を聞き分けて、正しい音を選ぶ。 ・画像や絵を見て最も合う言葉を選ぶ。 ・メッセージタイムで、前時と今回との違いを見つけ、高まったことを話す。	②力行音やタ行音の違いを考えながら構音トレーニングを行うことで、明確な発音になるように改善する。 ・トレーニングタイムで、発声のリラックス効果を得るために感覚統合運動を行ったり口・舌の体操を行ったりして、口腔内の力を高める。 ・発音する際、構音方法や構音位置を理解して、意欲的に話そうとすることができる。	③自分で活動を選択できる場を設定し、主体的に取り組むことができる。 ・自己選択や主体性を大切にして、トレーニングタイムやスキルタイムで自分から進んで取り組めるようにする。
---	--	--

３．単元の目標

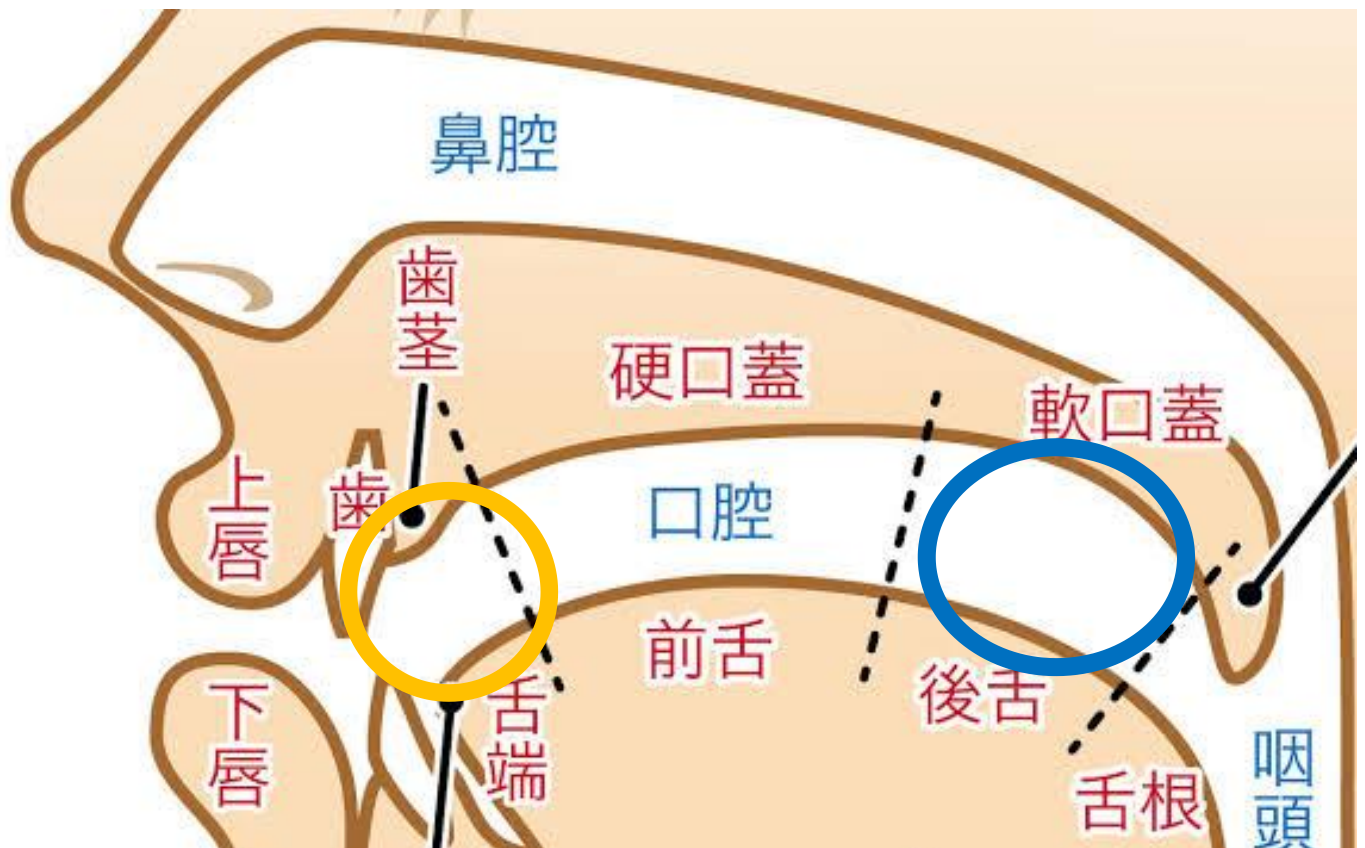
- ・道具や言葉を使って自分らしく考えたり表現したりする学習を行うことで、自分の気持ちや様子を表現することができる。
- ・力行音とタ行音の構音トレーニングを行うことで、明確な発音になるように改善する。
- ・活動を選択できる場を設定し、主体的に取り組むことができる。

■ 領 域：自立活動		■ 単 元 名：チャレンジ！なりたい自分「お話名人」(3/6)	
■ 授業者：北山 晃英		■ 授業教室：ことば（言語通級教室） 2年児童	
■ 本時の「ねらい」 友達や先生に自分が伝えたいことを伝えるように話したいというなりたい自分を目指して、カ行音やタ行音の構音練習に取り組み、「ク音」や「ツ音」がある言葉や文の練習を通して、ク音は後舌を軟口蓋に当てると発音しやすく、ツ音は舌端を上歯茎に力を入れて当てると発音しやすいことに気づき、ク音やツ音の違いをはっきりさせながら言葉や文を相手に伝えるように読めたことを実感することができる。 【コミュニケーション6－（1）】			
時間	●学習活動	・児童の姿	「ねらい」にせまるための手立て
0	● スタディタイム クラスからの課題に取り組む。 ● お話タイム 本時の課題や学習の流れを確認する。		◇研究内容1：個別最適な学び ●なりたい自分に近づくために、本時の課題と学習の流れを確認する。
10	「く」と「つ」がつくことばを言うときの違いはなんだろう。 ・トレーニングタイムで使う道具や練習場を自分で選ぶ。 ・自分で選んで決めることができた。		●毎時間の活動に児童が主体性をもち意思決定できるように、トレーニングタイムで選択する場を設ける。発声のリラックスのため感覚統合運動を行い、GPDC(目標・計画・実行・確認)を意識して行動できるきっかけをつくる。
15	● トレーニングタイム 体や口を動かす。 ・バランスボールに乗りながら、たくさん言葉が言えた。 ・たくさんボールを投げたりキャッチしたりすることができた。 ・鏡を見ながら口や舌をたくさん動かすことができた。 ・舌のトレーニングで舌の後ろが口の上に当たる感じがわかった。		●児童が視点を意識できるように、ホワイトボードに活動内容を示し、モジュールにした活動内容ごとで自己評価し、振り返りながら進める。
25	● スキルタイム 語音弁別・音読・鏡や歯の模型を使って、自分の口形や舌の位置を確認する。 ・先生の発音を聞き分けて、正しい音を選ぶことができた。 ・「く」と「つ」がつく言葉を自分でも読んだけど、もっとはきはき読めるといいな。 ・自分の口の形の写真を見て、「く」と「つ」の口の形はよく似ているとわかった。舌の位置はどうなのかな。 ・歯の模型を使って、舌の位置は、ク音は舌の後ろ側と口の天井がつくと発音しやすく、ツ音は舌先を上歯茎の裏辺りに当てると発音しやすい。舌に力を入れるといいやすい。		●鏡で自身の口の開閉がよくできていることを確認し、舌を当てる場所によっても発音が変化することに気づくよう促す。
35	● チャレンジタイム 「ク音」や「ツ音」を語頭、語尾、語中の順に交互に音読し、その様子を録画する。 ・スキルタイムのときの音読よりも舌を当てる位置に気をつけて読めるようになりたいな。		●言葉のどこに「く」や「つ」があるのかわかるように可視化する。
40	● メッセージタイム 前と今とをタブレット録音を聞き比べ、「ク音」や「ツ音」を発音するとき、本時で高まったことを話す。 【目指す子どもの姿（評価）】 舌の後ろを口の奥の上の方に当てると「く」音が言えて、舌の先を歯茎の裏に力を入れて当てると「つ」音が言えたよ。 ● 教師の評価 5問クイズで答えに「ク音」や「ツ音」がつく問題を聞き、○×で答える。		◇研究内容2：協働的な学び ●前時よりも良くなったところや変化したところを中心に対話をするすることで、子どもが自身のよさや変化に気づいて自己評価できるように促す。
45			

板書計画



構音位置 構音方法	国際音声字母 (IPA)						
	りょうしんおん 両唇音	しけいおん 歯茎音	しけいこうこうがいおん 歯茎硬口蓋音	こうこうがいおん 硬口蓋音	なんこうがいおん 軟口蓋音	こうがいすいおん 口蓋垂音	せいもんおん 声門音
びおん 鼻音 ▲	[m] マ行 	[n] ナ行 	[ɲ] 	●本来の記号 [ɲ] は硬口蓋音だが、日本語の発音に合わせて歯茎硬口蓋鼻音の記号として使用		[-ŋ] 	[-ɴ] 
はれつおん 破裂音 ★	[p/b] バ行 	[t/d] タ行 			[k/g] カ行 ガ行 		
はさつおん 破擦音 ★		[ts/dz] 	[tɕ/dʑ] 				
はじ おん 弾き音 ◐		[ɾ] 					
まさつおん 摩擦音 〰	[ɸ] 	[s/-z-] 	[ɕ/-ʑ-] 	[ç] 			[h] 
せっきんおん 接近音 （ ）				[j] 	[ɰ] 	●この調音点は両唇と軟口蓋の2箇所 ●本来の記号 [w] と違い、両唇は近づけるが丸めない	



①〔単元の目標〕

割合、百分率の意味を理解し、それらを用いて、2つの数量の関係と別の数量の関係を比べたり、比較量や基準量を求めたりすることができる。

知 割合を百分率や歩合で表す方法を理解し、割合を求めたり、比較量や基準量を求めたりすることができる。

考 数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べ方を考えることができる。また、割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだすことができる。

主 百分率や歩合のよさに気づき、身の回りから割合が使われている場面を見いだすなど、割合を生活や学習に生かそうとする。

②〔評価規準〕

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 割合を用いた2つの数量の関係どうしの比べ方を理解している。 ② 「パーセント（％）」、「百分率」の用語とその意味、表し方を理解し、割合を求め、百分率で表すことができる。 ③ 割合が1より大きくなる場合について理解し、その割合を求め、百分率で表すことができる。 ④ 比較量は、基準量×割合で求められることを理解し、求めることができる。 ⑤ 比較量と割合から、基準量を求める方法を理解し、求めることができる。 ⑥ 比較量の割合を求め、基準量とその割合から、比較量を求める方法を理解している。 ⑦ 比較量の割合を求め、比較量とその割合から、基準量を求める方法を理解している。 ⑧ 割合を歩合で表すことができる。 ⑨ 割合を百分率で表したり、割合、比較量、基準量を求めたりすることができる。	① 全体と部分の関係に着目し、数量の関係どうしの比べ方を見いだしている。 ② 比較量は、基準量×割合で求められることを理解し、求めることができる。 ③ 割合、比較量、基準量の関係に着目し、基準量の求め方を考え、説明している。 ④ 割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだしている。 ⑤ 割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだしている。 ⑥ 言葉や式などを用いて、割合を用いた比べ方を説明している。	① 割合を百分率で表すよさに気づいている。 ② 歩合のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。 ③ 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。 ④ 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

小単元	時	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
割合と百分率	1 2	教p.164の2つの場面を見て、倍（割合）を使って数量関係が比べられたことを振り返る。 2つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解し、割合を小数で求める。	◎知①（ノート分析）	思①（ノート分析）	
	3	「パーセント（％）」、「百分率」の用語や意味を理解し、割合を百分率で表す。 日常生活の様々な場面で％が使われていることを知り、百分率についての興味・関心を高める。	◎知②（ノート分析）		
	4	割合が1より大きい場合に、その割合を百分率で表す。	◎知③（ノート分析）		主①（行動観察）
割合の使い方	5	比較量は、「基準量×割合」で求められることを理解する。	◎知④（ノート分析）	思②（ノート分析）	主①②（行動観察）
	6 本時	比較量と割合から、基準量を求める方法を理解する。 割合、比較量、基準量のそれぞれを求める式を比べ、数量関係の理解を深める。	◎知⑤（ノート分析）	思③（ノート分析）	
	7	比較量の割合がどれだけになるかを求めるなどして、基準量とその割合から比較量を求める。	◎知⑥（ノート分析）	思④（ノート分析）	
	8	比較量の割合がどれだけになるかを求め、比較量とその割合から基準量を求める。	知⑦（ノート分析）	◎思⑤（ノート分析）	
歩合	9	歩合の意味とその表し方を理解し、割合を歩合で表す。 1割の他に、1分や1厘という表し方を知り、歩合についての理解を深める。	◎知⑧（ノート分析）		主③（行動観察）
たしかめ	10	基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	◎知⑨（評価問題）	◎思⑥（評価問題）	主④（評価問題）
テスト	11	学習内容の定着を確認する。	◎知（ペーパーテスト）	◎思（ペーパーテスト）	

※記録に残す評価を◎とする。

■ 教科：算数科 ■ 授業者：砂田 睦美	■ 教材名：割合（6／11） ■ 授業学級：ひまわり4組（自閉症・情緒障がい学級 5年生6名）	（北舎1階 ひまわり4組教室）
■ 本時の「ねらい」 A児：かけられる数が2けたのかけ算の計算を利用して、ワークシートを活用することで、かけられる数が3けたのかけ算の計算がわかる。【知識・技能】 【コミュニケーション6-(2)】カードを使って、わかった、わからないという気持ちを伝えることができる。 B児：ことばの式を利用して、前時の学習のポイントが書かれたものを使ったり、本時何を見つけなくてはいけないかわかるようなワークシートに書き込みをしたりすることで、もとにする量を求めるには、比べる量を割合で割ることで計算できることがわかり立式することができる。【知識・技能】 【コミュニケーション6-(5)】わからない時は仲間に関き、話の道筋を考えて、自分の考えを伝えることができる。 C児：穴あきの数直線図をつくることで、もとにする量を求めるには、比べる量を割合で割ることで計算できることがわかり立式することができる。【知識・技能】 【人間関係の形成3-(4)】手順や決まりを理解し、仲間との対話活動に向かうことができる。 D児：比べる量や割合が数直線図のどの部分に入るのかを考えながら問題を読むことで、もとにする量を求めるには、比べる量を割合で割ることで計算できることがわかり立式することができる。【知識・技能】 【人間関係の形成3-(3)】自分の得意なことと不得意なことを考えて、状況に応じた行動をとることができる。 E児：小数の計算での口を数直線図の中でも使うことがこの学習でも活かせることがわかり、数直線図を利用し口を使った式にすることで、もとにする量を求めるには、比べる量を割合で割ることで計算できることがわかり立式することができる。【知識・技能】 【心理的な安定2-(2)】学習内容を理解し、あきらめず最後まで活動に取り組むことができる。 F児：何を知らたいのかをはっきりさせるためのワークシートを使いながら、穴あきのことばの式を利用して、もとにする量を求めるには、比べる量を割合で割ることで計算できることがわかり立式することができる。【知識・技能】 【コミュニケーション6-(5)】わからない時は聞き返して、自分の考えを伝えることができる。		
■ 本時に働かせる見方・考え方 【見方・考え方】B・C・D・E・F児：もとにする量を求める時は、もとにする量を口として、比べる量を求めるかけ算の式に表すと考えやすくなる。（比べる量＝口×割合⇒口＝比べる量÷割合） A児：かけられる数が3けたのかけ算も、これまでに学習した位ごとに分ける考え方を利用すると、計算することができる。		

時間 課題化 個人追究 対話 演習	B・C・D・E・F児	●学習活動 ・児童の姿 A児	「ねらい」にせまるための手立て
	●課題をつくる 0先生の今月の体重は84kgでした。これは、先月の体重の120%だそうです。先月の体重は何kgですか。 体重 割合 0 0 84 (kg) 1 1.2 (倍) ・「比べる量＝もとにする量×割合」で計算できたよ。 課題:もとにする量を求めるにはどんな式にしたらいいのかな	●プリントで前時までの復習 2けた×1けたの筆算のプリントをやる。 ●課題をつくる 1こ312円の Copp を3こ買います。代金は何円ですか。 ・3けたになると、どう計算したらよいのだろう。 課題：かけられる数が3けたのかけ算のしかたはどうしたらいいのかな ●課題を追究する 2けたの時は、位ごとに計算したな。 3けたでも同じように計算すればいいのかな。 (2けた)×(1けた)の計算と同じように考えると… 312×3 $\rightarrow 10 \times 3 =$ $2 \times 3 =$ $312 \times 3 =$ 答え	◇研究内容1：「個別最適な学び」 【B・C・D・E児】：「基準量は『比べる量÷割合』で求められる」をもとにして、割合、比較量、基準量の関係に着目し、基準量の求め方を考え説明する際に、困った場合を考え、以下のものを準備し、個別に指導する。 - 前時の学習のポイントを書いたもの - 本時何を見つけてないかわかるようなワークシートを準備（ことばの式） - 数直線図をかきながら説明できるような穴あきの数直線図 - 数直線図のみ 【F児】：自信をもって取り組めるように、励ましの声かけをしたりよいところを見つけほめたりするようにしていく。 - 本時何を見つけてないかわかるようなワークシートを準備（ことばの式） - 数直線図をかきながら説明できるような穴あきの数直線図 【A児】：ワークシートを使い一緒にやってみる。
	●課題を追究する - 比べる量は、今月の体重の84kgだね。 - もとにする量は、先月の体重なんだよ。 - 割合は、120%だから1.2倍で表せるね。 - 数直線を利用して、どんな計算式にしたらいいのかなあ。 もとにする量は□になるから、□の1.2倍が84になるから⇒□×1.2＝84⇒□＝84÷1.2でできそう。 - ことばの式で考えてみよう。 比べる量＝もとにする量×割合⇒84＝□×1.2⇒□＝84÷1.2 - 合っているのかな。確かめ算をして確かめてみよう。 ●対話活動を行う - 一人一人の考えをプリントやノートを使って説明する。 ●まとめる もとにする量を求める時は、もとにする量を□として、比べる量を求めるかけ算の式に表すと考えやすくなる。 □＝比べる量÷割合	●まとめる かけられる数が3けたのかけ算も、これまでに学習したかけ算と同じように、位ごとに分けて考えると計算することができる。 ●練習問題に取り組む プリント ●高まりを表出する ・選択してプリントに記入する。 【目指す子どもの姿（評価）】 自分のつくった式が「□＝比べる量÷割合」になっていることがわかったよ	◇研究内容2：「協働的な学び」 - ノートを用いて、対話を進められるようにする。 - 数直線図を使って考えたのか、ことばの式を使って考えたのかをわかるように話すことを促す。 ・A児ができたことを仲間に伝える時間をつくる。 【対話の視点】 どうやって式を考えたのか
	●たしかめ問題に取り組む (P174□3・□4) ●練習問題に取り組む プラス・ワンP279 ツ・テ ●高まりの表出（ノートに記入する。） 〇〇さんの考え方を聞いて、自分の考え方よりわかりやすいと思った。 - もとにする量がわからなかったけれど、割合と比べる量を使えば求められることがわかった。		◇個々の自立活動に対する支援 【B児】：自分の考えを、式を用いてわかりやすく伝えられるよう言葉かけをする。 【C児】：仲間の発表の途中でさえぎらないように言葉かけをする。また、仲間の話を最後まで聞けるよう言葉かけをする。 【D児】：自分がやりやすい方法を見つけ、取り組むことができるようにする。 【E児】：自分の考えを書いたら、仲間に伝えるように促す。 【F児】：学習の流れを示すことで、見通しをもって取り組むことができるようにする。困ったときの手がかりとして掲示を指し示し、安心して学習に向かうことができるようにする。 【A児】：適度な間をおいて、気持ちを確かめていく。

板書計画

先月 ? kg → 今月 84 kg

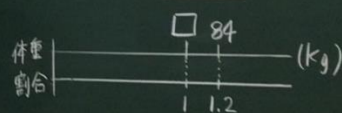

 $\Rightarrow$


120%

増えた

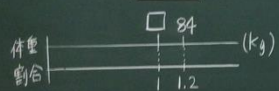
割合

① 〇さんの今月の体重は 84 kg でした
これは 先月の体重の 120% だそうです
先月の体重は 何 kg ですか

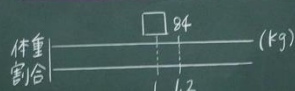


割合

① 〇さんの今月の体重は 84 kg でした
これは 先月の体重の 120% だそうです
先月の体重は 何 kg ですか



もとにする量を求めるには
どんな式にしたらいいかな



$\square \times 1.2 = 84$
 $\square = 84 \div 1.2$
 $\square = 70$

もとにする量を求めるときはもとにする量を $\square$ として、比べる量を求めるかけ算の式に表すと考えやすくなる

$\text{比べる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$
 $\downarrow$
 $84 = \square \times 1.2$
 $84 \div 1.2 = 70$

学習の足あと

$\text{割合} = \frac{\text{比べる量}}{\text{もとにする量}}$
 $\updownarrow$
 $\text{比べる量} = \text{もとにする量} \times \text{割合}$
 $\text{もとにする量} = \frac{\text{比べる量}}{\text{割合}}$

かけ算

① かけられる数がろけたのかけ算のしかたはどうしたらいいのかな

② 位ごとにわけて考えると計算することが出来る